

7月21日から8月8日まで日本へ一時帰国した。久しぶりの帰国で、日本での滞在が大いにリフレッシュしたことは言うまでもない。昨年12月にスリランカに来てから約8か月、この間取り立てて困ったことや大変なことなどがあつた訳ではないが、ただ、暑さやスパイシーな食べ物に少々うざりしていたので、このあたりで一時帰国してみたいと考えてみた。

日本に帰ってからはあまり外に出かけることはなく、家でのおんびり過ごした。これが大変よかったと思う。幸いにして私が日本にいる間は涼しくて、リフレッシュするには最適な時期であった。スリランカの変化に乏しい気候風土やまた食べ物と言えればカレーに代表されるスパイシーなものばかりで、しかもバリエーションがない食べ物に体が拒否反応を示していた。約20日間の滞在で何とか日本食に癒されてやっと元気になり、スリランカに戻ることができた。

スリランカでは間もなくキャンディのペラヘラ祭りが開催される時期となった。「ペラヘラ祭り」というのは、100年以上も続いているアジア最大の仏教の祭典である。100頭以上のゾウがきらびやかに着飾り、踊り、楽隊、太鼓、アクロバティックなショーなど3時間にも及ぶ行列が市内を練り歩くもので、「ペラヘラ」というのは「行列、行進」を意味する。今年は8月11日から20日までの

10日間開催された。祭りの開催時期はその年によって異なる。陰暦の7月から8月にかけてのエサラ月とニキ二月の間の満月の日を最終日として行われる。私は今回19日と20日の2日間、大学の日本人同僚と共に見学に出かけた。ペラヘラ祭りはコロomboをはじめとして、ケラニヤ、ガンパハ、カタラガマ等でも開催されるが、何と言つてもキャンディのペラヘラ祭りが最大で、見ごたえがある。

祭りは「デーワレ・ペラヘラ」、「クンバル・ペラヘラ」、「ランドーリ・ペラヘラ」の3つに分けられ、それぞれ5日間ずつ区切られているが、街中を練り歩くのはクンバル・ペラヘラからで、日を追うごとに規模を大きくしていき、最終日に頂点に達する。最終日の次の日には昼間にディ・ペラヘラも行われるが、これはもう小規模で、それほどものではない。

この祭りを見るためにスリランカ中から、否、世界中から観光客が押し寄せる。そのためホテルを予約するのが容易ではなく、直前では予約が難しく、宿泊料も通常の2倍もする。幸いにして私はすでに3月に予約を入れていたので問題はなく、しかも料金も通常の料金で大丈夫であった。しかし、同僚は7月初めに予約を旅行会社に入れてみたものの、ホテルは取れたが、1泊の料金が250ドルと通常の倍の料金であった。



仏歯寺の正面



火の点いた輪を回しながら踊るファイアーダンス

19日の朝バスでコロomboを出発し、3時間余りでキャンディに到着した。祭りは最後の終盤を迎えて、キャンディの街はものすごい人で混雑し、歩くのさえ容易ではなかった。キャンディと言えば先ずは仏歯寺ということになり、到着後ホテルに荷物を置き、見学に出かけた。入場料が1000ルピーもするので、あまり入りたいとは思わなかったが、同僚は初めてなので行くことにした。幸いにして、レジデント・ヴィザを持っていたので、入場料は100ルピーとなった。この寺の目玉は何と言っても仏歯（仏陀の右の糸切り）が安置されていることで、このため仏教の聖地となっている。ペラヘラ祭りはこの仏歯を中心に据えて、この寺から出発し、戻ってくる。

祭りの様子を見てみよう。最終日(8月20日)が最大規模のパレードとなり、この日は毎年大統領夫妻も見に来られる。開始時間は20時を過ぎていた。決められた開始時間になると、合図の花火が打ち上げられ開始された。私たちは行列が通るルートが一番良いQueen's Hotel(クィーンズホテル)2階バルコニーから見学した。地元の人々は行列が通る沿道で座りながら見ている。彼らは良い場所をもうお昼頃から確保していた。外国人観光客用には指定席が販売されていて、一人70ドルもする。毎年値上がりしている。

祭りが開始された。最初に長い鞭を持った人々が登場した。これは祭りの先駆けとも言うべきもので、道路に鞭を打ちながら進んでいく。すると沿道にいる人々は彼らに硬貨を投げ与えていた。次に登場したのは、火の舞いを踊る青年たちである。

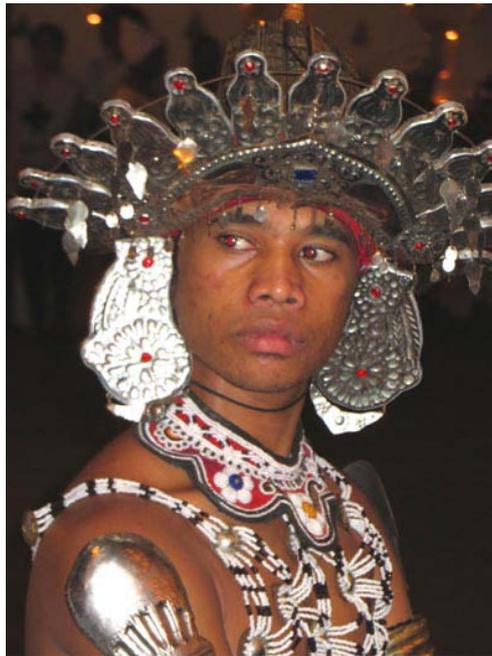
大きな火の付いた輪を回しながら踊っている。中には小さい子供たちが大人の背中に乗って火の付いた輪を回している。バランスを崩すのではない

かとひやひやしながら見ていたが、何事もなく、進んで行った。すぐ仏教旗や州の旗を持った人々が続き、やがて軽快な太鼓の音が聞こえてきた。縦長の太鼓や横長の太鼓が続々と登場し、それに合わせて踊りを踊る100人ほどの踊り手が現れ、沿道は興奮の坩堝と化していった。

さらにゾウに跨った土地役人とゾウ厩舎の長、在家総代、副在家総代、この祭りの見ものとも言うべき仏歯寺のゾウ(カスケードに収めた仏陀の歯を背中に乗せている)、ウェスダンス、キャンディに祀られている国の四大守護神の各神殿のゾウ(ナータ、ヴィシュヌ、カタラガマ、パッティニの順)、各神殿の総代、輿が続く。このほかにも女性を中心とした農耕をテーマにした踊り、アクロバティックな見せものや踊りなど延々と3時間にも及んだ。終了したのは11時を大幅に過ぎてしまっていた。

最後に紹介しておきたいが、毎年日本から参加しているスリランカ人がある。元々ウェスダンスの名門の出で、キャンディアン・ダンサーとして父親と共にスリランカで活躍

していた人物(川崎市溝の口にあるレストラン「スラサ」の経営者スサンタ氏)であるが、日本に住むようになってこの時期だけは帰国し、祭りに参加している。さらにもう一つ付け加えるならば、日本から皇族高円宮家の長女承子(ときこ)様がペラヘラを見学され、現地のテレビや新聞には大きく報道されていた。



キャンディアン・ダンスを踊る踊り手



仏歯を乗せたラジャと呼ばれるゾウ